

# 令和7年度(2025)第2回出雲市総合教育会議 会議録

令和7年(2025)12月23日(火)午後3時30分、令和7年度(2025)第2回出雲市総合教育会議を出雲市役所6階 委員会室に招集した。

## 次第

- I 市長あいさつ
- II 教育に関する諸課題
  - (1) 出雲市教職員多忙化解消プラン  
(業務量管理・健康確保措置実施計画)
- III 教育長あいさつ

## 出席者名簿

### 出雲市総合教育会議

市長	飯塚 俊之
教育長	杉谷 学
委員	川田 量子
委員	奥 康人
委員	布野 和弘
委員	鳥屋尾 あかね
副市長(オブザーバー)	伊藤 功

### 教育部

副教育長	金 築 健志
教育部次長(学校教育課長)	矢 田 和 則
教育部次長(児童生徒支援課長)	原 田 尚
教育部次長(教育政策課長)	山 根 裕 恵
児童生徒支援課 課長補佐	小 林 剛
教育政策課 主査(書記)	池 尻 精 二
教育政策課 係長	三 木 裕 子

**(山根教育部次長)**ただいまから、令和7年度第2回総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、飯塚市長がごあいさつ申し上げます。

## I 市長あいさつ

### (飯塚市長)

本日は、令和7年度第2回出雲市総合教育会議を開催しましたところ、委員の皆様には、御多用の中出席いただき、厚くお礼申し上げます。

この総合教育会議は、本市の教育の課題や、あるべき姿について、市長である私と教育

委員会が情報を共有し、意思統一する場であります。

昨年度の6月の総合教育会議では、「子どもたちへよりよい教育を届けるための学校の働き方改革」について議論をさせていただいたところです。本年の6月11日には、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律、いわゆる「給特法」等の改正法が成立いたしました。この改正により、教育委員会から、この総合教育会議に対して、「業務量管理・健康確保措置実施計画」の実施状況の報告が義務づけられました。そのため、今回は、「業務量管理・健康確保措置実施計画」である「出雲市教職員多忙化解消プラン」をテーマにさせていただきました。私の考えを含めた本市での取組や、学校での取組などについて、みなさま方と、意見交換を行い、教員の働き方改革をさらに進めていけたらと考えております。

限られた時間ではありますが、委員のみなさま方と建設的でよりよい議論ができればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

**(山根教育部次長)** それでは早速ですが、協議に入ります。お手元にお配りしております、資料「出雲市総合教育会議設置要綱」をご覧ください。この総合教育会議の目的につきましては、記載のとおり、資料の設置要綱第2条第2号にあります「出雲市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」として「業務量管理・健康確保措置実施計画」であります「出雲市教職員多忙化解消プラン」について、協議や意見交換をしていただく予定としております。それでは、設置要綱第4条第1項の規定によりまして、市長が議長となり進行を行うこととなっております。これからは市長に進行をお願いいたします。

## II 協議事項

### ◎教育に関する諸課題について

#### (1) 協議事項◎出雲市教職員多忙化解消プラン

##### (業務量管理・健康確保措置実施計画)

**(飯塚市長)** それでは、よろしく願いいたします。それではさっそく、II 協議事項に入ります。協議事項◎教育を取り巻く諸課題についてということで、今回は、「業務量管理・健康確保措置実施計画」であります「出雲市教職員多忙化解消プラン」についてをテーマにさせていただきました。まず担当課からお願いします。

#### **(池尻教育政策課主査)** (資料を用いて説明)

**(飯塚市長)** さきほど、給特法の改正や出雲市教職員多忙化解消プランについて、説明がありました。

これから、みなさま方と意見交換を行いたいと思います。どなたからでも結構ですので、

ご発言をお願いします。川田委員。

**(川田委員)** この多忙化解消プランは、もちろん教職員の皆さん、保護者・地域のみなさんがあるのですが、どういう形で示されるものですか。教職員の皆さんは、目に触れられる機会があると思うのですが、保護者・地域の皆さんに、示されるとしたらどんな形になるのでしょうか。

**(飯塚市長)** お願いします。

**(池尻教育政策課主査)** 今、予定しておりますのは、まず策定をしたら市のホームページに掲載するという事です。来年度になり4月号か5月号の広報いずもで、特集ページを組んで周知していただくように広報課にはお願いしております。保護者の方には学校からさくらメールあるいは保護者会のときに、お伝えいただくなどで保護者の方には周知していけたらと思っております。

**(飯塚市長)** 川田委員。

**(川田委員)** このことを聞いたかったのは、保護者・地域の皆さんがこれを見て、何となく、思いが描けるかどうか。このプランについて、もちろん目標として、子どもたちのためというのが大前提にあるのですが、それがちょっと伝わるのかなという疑問があったのです。教育の質の向上のためとあるのですが、質の向上とあれば、教職員の皆様はたぶん理解ができると思うのです。しかし、保護者から見て、何が質の向上なのかということがわかりにくいと思います。学力を上げることなのか、数字を上げることなのか、先生たちが生き生きと働かれる中で、何がその子どもにいいのかということは、ちょっとイメージしにくいなと思ってしまいます。働き方改革と言われると、大事なことだというイメージがあるのです。それが、子どもたちにとっても大事なことだということが、働き方改革と言われると一方的に言われる感じがします。関係しているのが、働き方と書いてあるだけだから先生たちだけ関係するようになって感じます。子どもたちを巻き込んだものだという、イメージがちょっとしにくいかなというのが感想です。わかりやすく書いていただきたいというのが、私の感想です。もちろんいいことなんだろうというイメージはあるのですが、具体的なイメージがわきにくいというふうに思っています。伝わることは、子どもたちも自分たちも関係者なんだということが入った方がいいかなと思います。出雲市新話2030でも、ともに育むという目標もあるし、そういうコンセプトというか課題、一つの大きな目標がある中で、これもそれに合わせて、やっぱり一緒にやるという感じができたらいいなとずっと思っていました。個人的な意見ですが、保護者としても、そういうイメージを持ちました。

**(飯塚市長)** 保護者の皆さん方にも、その辺りがわかりやすく、伝わるような形がいいということですね。教職員の皆さんの負担が軽減して、やっぱり授業に集中できるようなことをつくっていくこと。学校でも、教育委員会でも、いろいろなサポートをしたりということですね。そういうことを行いながら、見える化というか保護者の皆さん方にもその辺りを共有していただくということは非常に大切なことだと思います。こういう努力をして、こういう環境づくりをしていく、その先は、児童生徒のために、教育の質を高めたりとか、誰もいろんなアプローチができる回数を増やしていったりとか、そういうことに繋がっていくよということがわかりやすくということですね。

**(川田委員)** そうですね。

**(飯塚市長)** 我々として当然やっていくのですけれど、共有していく、環境づくりをしていく。

**(川田委員)** ただ、忙しいと言われても、保護者の方々も忙しいとわかっておられない方が多くて、本当に見えていない部分もあるという印象をもっています。

**(飯塚市長)** いろいろと保護者の皆様に報告、お知らせするということです。その辺り、伝わりやすい表現とか、具体例とか、そういう場合もあるかもしれませんので、少し考えていきたいというふうに思います。奥委員。

**(奥委員)** 教育長にご意見をいただきたいと思います。通常見る限りでは、資料としてはいいと思いますが、これを見られて、7年半経っています。時間がかかるものだと思いますけれど、何が原因になっているのか、その原因が、学校によりさまざまに違ってくる。中学校も違う、小学校も違うとは思いますがけれども、どのように捉えられていらっしゃるのかということをお伺いをしたいと思います。

**(飯塚市長)** 杉谷教育長。

**(杉谷教育長)** 今回、お配りさせていただいた当日配布資料2をまず見ていただきますと、学校ごとの集計が出ています。押し並べて30時間以内ということになると小学校については統合前の学校も含めていますので33校中18校は30時間以内であると。その学校を見てみますと、特徴的であるのは大きく二つあるのかなと思っています。一つは、やや小規模な学校です。子ども一人一人にかける時間というのが、多人数の学校よりは少ないということから、例えば授業準備をする、仮にプリントであるとかも、枚数的にも、量的に

も、少なくとも済むってというような物理的な面もあって、比較的小規模な学校は、時間的には抑えられているということです。もう一方で、大規模な学校が低い状況も見られるということがあります。私としては二つ要因があるのかなと思っています。一つは、教員の配置が多いことによって、学校全体の業務が分散できる。1人が受け持つその事務量というのが、少なくなるっていうことがあるんじゃないかと思います。仮に学校に100の業務があるとすると、それを10人で分けるのか、50人で分けるのかというと1人当たりにかかってくる量的なものは、たぶん違ってくるということが一点あるのかなということです。もう一つは、例えば、塩冶小でありますとか高松小でありますとか西野小でありますとか、モデル的に実施している学校の2学期制でありますとか、あるいは評価の2回制を取り入れている学校が挙がってきているかなというふうに見ました。時間的な余裕が作り出しやすいついていうことの一つの表れなのかもしれないなというところが伺えます。大規模校によらばは教員数が多いことプラスそうした取り組みを現在積極的にやっているところが成果の一つ。小規模校は、子どもが少ない分だけ、先生たちに余裕が生まれるのでないかなというところでは、やはり部活動にカウントされている時間というのが相当にあるのではないかと思います。やはり、大規模な学校が、時間的に調べた数字は大きいというふうに見ています。比較的、小規模の学校は、小学校と同様に抑えられているのかなというところがあります。部活動の数、そこに当たる教員の主顧問に当たるものの人数というのが限られている中で、全体を調べるとやはり低い数字になっているというところが窺えます。大社中とか、浜山中というのが比較的少ない時間数で抑えられている。これは学校の取り組みの成果、それが具体的に何かという今、持ち得ていないのですけれど、何か工夫が見られるかなというところがあります。

**(飯塚市長)** 奥委員。

**(奥委員)** 学校にも特色があったりとか、今おっしゃったようにいろんな事情もありながら、なかなか時間を合わせていけないという事情もあるかと思っています。もう一つ突っ込んで、教職員個人の限界能力というものはあろうかとは思いますが、逆に、時間の使い方ということが慢性的な状況であるようであれば、学校の中では指導もしていただかなければいけないと思います。ただ、その辺りの見極めが非常に難しいと思います。支えていけることというのは今日の話的には、業務量管理とか、健康確保措置ということでもありますけれども、先生方の意識の向上、資質向上というものを合わせて行っていないと、なかなか数値というのは、見えてこないのではないかなというふうに思います。そういったところもしっかり取り組んでいていただきたいというふうに思っております。

**(飯塚市長)** 杉谷教育長。

**(杉谷教育長)** 確かに時間があってもどう使うかとか、何となく、残って仕事をしていることの安心感と、ちょっと表現は正しいかどうかわかりませんが、そういうところがあるのではないかと考えております。80時間を超える教職員数を延べでいくと291人という数字を報告させていただきました。同一の方々が残っていらっしゃる可能性もあるということは、私も経験的に感じています。今日、お配りしてる資料の数値の基になっている各学校のデータはタイムカードできちんと記録して、毎月、一覧で出るので。学校で、きちんとチェックできるようにして、在校等時間が多い職員には個別に面接をしているという状況もあります。指導というか、事情を聞きながら、どういうふうに進めていったらいいかみたいなのところもアドバイスしながらではありますけれど、継続して改善していく必要は確かにあるかと思えます。ご意見として本当にごもつともでありますし、続けていかなきゃいけないと思えます。プランの中にそういうことがしっかりこう書かれているっていうことも必要であるというご意見であれば、もうちょっと表現も考えないといけないです。

**(奥委員)** この話の内容だけだと、だめだろうということですよ。

**(杉谷教育長)** ありがとうございました。

**(飯塚市長)** 布野委員。

**(布野委員)** 先ほど川田委員が言われました保護者へのPR、地域へのPRするところでは、我々もパッと見ただけでは難しいし、わかりづらい。そこを保護者にどうやってPRしたらいいのかなというところは、かなり難しいのではないかなと感じます。反対に言えば、学校の方の運営理事会とかPTAとか、学校の参観日をこの特別的な事業に、こういうふうに変わりますよというような変革を持たすような形でない、配布物ではたぶん今の保護者の皆さんは見ない人が、かなりいるのじゃないかという心配があります。共稼ぎでなかなか子どもたちとの会話の中からでも、お父さんとお母さんと話していることがあると聞いたら、少ない時間しかない状況です。反対に子どもたちは、タブレットやゲームをやったり、ユーチューブを見たりしている環境の中にあります。わからなくはないのですが、PRの方向性をちょっと考えて欲しいなということですよ。部活の関係で、地域にも柔道や野球やバスケットボール、ドッジボールといった指導者がいます。その人たちに聞くと、地域に投げてもらえるのはありがたいのですが、細かいところの話し合いは、1度決まったからこうですよではなくて、最初から築き上げて欲しい。こういうふうなルールで、このスポーツはこういうふうな指導者でこういうふうにごやっくださいよ。何がいけなくて何がいいのかというと、大分、言いたいことがあるみたいです。我々もその部会であり、そのところに呼び込んで欲しいという意見も聞いています。

地域密着と兼ね合ってくるところもあるので、そういったお願いのことがあります。先生方の仕事の時間帯というのは、我々企業とはちょっと違うような感覚があります。距離が遠いところだったなら、本当に、6時半とか7時半からでも、車のラッシュを避けながら出てくるようになります。そういった時間帯、最後までいるとなると本当に長時間のような気がします。我々は目に見えない、仕事の関係だと思えます。いろんな資料を作ると言われましたけれど、過去に先生方がいろんな資料を作っているものは、コピーなどして利用できないものなのではないでしょうか。先生方が苦労して作ったその資料をとっておいて、この授業ではこの先生の資料が使えるといったことがないのか。せつかく作った資料そのものを、無駄にしているとは言いませんが、何かいい方向にはなっていると思うのですけれど、極端に教科書が変わるわけじゃないので、基本的なことであったなら、同じものを使うのであれば、再度作り直すことはないと思うのです。何かその辺りの工夫をして、少しでも労働時間を変えてくるようなこともできるのではないかなという気がしています。もう少し何か、地域ができることと、体育系そういったスポーツを指導する指導者といったところをミックスした中に置けば、かなり盛り上がってきてこういう地域がこういう形でやろうという、先生方を応援しようという形で出てくるんじゃないかなと思います。この間見たようにPTAがない組織は、地域の人々がものすごくバックアップして、予算的なことも含めて、お手伝いをしてくださるのではないかなというところがあります。そういったところを一つずつ攻めていって4年間のうちに、何かすばらしい出雲らしい、何か、未来が見えたらありがたいなと思っております。いろいろ言いましたけれど、私はそういうふうに夢を描きたいなと思っております、よろしく願いいたします。

**(飯塚市長)** 保護者への理解については運営理事会だとかPTAとかにいろいろアプローチして行って、理解を深めてもらいたいということでした。その手法については、運営理事会は、どこの学校にもあります。当然、説明させてもらいながら、理解してもらわなきゃいけないと考えております。近くで、学校の運営に携わっていただいておりますので、ぜひまたお願いしたいというふうに思います。部活動の意見交換も非常に大切な要素だと思っています。やっていただいているその指導者の皆さん方が、何かしらご意見があったりとかすれば、それをいろいろ話を聞いて解決することによって、他地域の取組みの参考になることがたくさんあると思います。頼んで、お願いします、そこで完結するのではなくて、横の繋がりとかそういうものを、これから作っていく段階だと思います。一つのものにしていかなきゃいけない。協力を得ながら、どんな形態がいいのか、直接ヒアリングがいいのか、何人かでディスカッションするような形がいいのかということもあります。作られた資料の使い方については、わからないので。

**(杉谷教育長)** 私は、学校の中でどういうふうにそれをどう扱っているのかというところ、全部承知はしていないのですが、一例でいうと、いわゆる多言語対応しているようなもの

は、教育委員会のフォルダというかサーバーの中に入っていて、どこの学校からでもアクセスして使えることにしているのです、それと同じようなものが学校の教科とか、そういうもので蓄積されて、使えればいいなというご意見であったかと思います。その辺りは、必要なことです。使えるものは使う、お互いにいいものにして行けばいいわけです。同じ教科の単元指導するのにそれぞれが作っている部分についても、また、これも省力化できる部分かなというふうに思ってきました。

**(飯塚市長)** 布野委員。

**(布野委員)** 若い先生方は、そういうことを知らないと思います。主幹教諭の先生だとか教頭先生などが教えていただければ、こういう資料もあるし、こういうのがないからこういう資料を集めてくるといいよなどと教えてくれればいいのかと思います。

**(杉谷教育長)** そうですね。

**(飯塚市長)** どうぞ。

**(原田教育部次長)** 人権同和教育の授業等で教案を作ります。その教案については教育委員会が、過去数年間分をずっとストックしてあり、共通で見れるフォルダに格納してあり、全校から見れるようになっております。若い職員はそれを紹介されて、それを見ながら、その教案をうまく使っています。教材もそこに入っておりますので、そういうものは増えていくといいのかなと思っていますし、学校の方でも当然、今までの年度ごとにいろいろなものをデータとしてストックしております。そういったところを工夫していけば、今、委員がおっしゃられるようなことを、今後もう少しうまくできるのかなと思います。さっき言われたように、その際に教頭とか主幹教諭という先生が、積極的に若い教員に指導していくといいのかなと思っています。

**(布野委員)** それを大体どれぐらいの人が閲覧しているのですか。

**(原田教育部次長)** 数字的には、閲覧回数はちょっとでわからないのですが、人権同和教育主任はそれを伝えますので、そうすると担当の学年の教員はそれを見ながらやります。

**(飯塚市長)** 鳥屋尾委員。

**(鳥屋尾委員)** 私、趣旨に合っているかわからないのですが、他の委員が言われたって

ということもあるのですが、先生が一人一人の子どもに向き合ってもらう時間を作ってもらうことが一番というのがあるのです。そうすると、時間外労働を減らすのは大事ですけど、時間外が増えているというのは、子どもに向き合っているのだなという、そういう見方もあります。現場がわかる人だと、このグラフはこういうことなのだなというのわかるのですが、一般の方が見て、これがわかるかなというのがあります。簡潔的に子どもたちと向き合う先生の時間が増える出雲のような、何か簡潔的にわかるフレーズのものがあると嬉しいと私は個人的に思います。目標が在校等時間のものであったりする中で、先生方のストレスチェックにおける高ストレス者の割合早期に5%未満とあるのです。5%どうなんだと、結構厳しいものだなと思っています。ストレスが高くても、先生方が生き生き働いていたりとか、辞める先生が少なかった、そういうのもあっていいのかなと思っていました。先生方は、ストレスがたまるのではないのでしょうか。そのストレスがたまる原因というのは、いろいろあると思います。ある特定の子どもに対する指導で、ストレスがかかっているのか、教員同士なのか、保護者さんからなのか内容にもよると思います。一概に、この5%未満という目標がいいのかなという気がしました。

**(飯塚市長)**一人一人に向き合う時間をということだと思います。今ここにある、教育委員会で取り組むこと、学校で取り組むこと、重点的に取り組むことをやっていくということが、その向き合う時間を確保していくことに繋がっていくと思います。言われるように、内容によって全然違う、学校によってシチュエーションが違ったりとか、この部分は効果があるし、もうこれは以前からやっているみたいなこともたぶんあったりすると思います。できるところからどんどん取り組んでいくということだと思います。たぶん、児童生徒に向き合う時間の他にいろんなことが付加されて、時間が長くなっています。教育委員会だったり学校の中でやりやすいこととか、地域によって、理解を得ながら部活動も含めて、そういった時間を確保するために、いろんなことを今取り組んでいく必要があるのではないかと理解をしています。そのことによって、離職の防止にも繋がっていくのかなというふうに思います。個別の事情というか、それぞれの事情によって、いろんなものを一律にやるのではなくて、ある程度、教育環境などは、いろいろ相談しながらやらなきゃいけないと思っています。限られたリソースの中で、限られた人的資源も含めてさまざまな資源を有効に生かすということが必要ではないか。その辺をうまくコントロールしていく必要かなというふうに思いました。川田委員。

**(川田委員)**今、鳥屋尾委員さんがおっしゃったのは、熱心な先生方にとっては、時間的に、単純に早く引き揚げる方がいいのだろうかとか、そういった中身の話をされたと思うのです。私は、結構そういうタイプで、熱心にやりたかったらやってもいいのではないかと考えていたのです。熱心な方ほど燃え尽きてしまうという実情があります。長く働ければいいのですが、本当に長時間すると、やっぱり厳しいということがあります。休ませ

てあげないといけないっていうのがあり、それは管理職がコントロールするべきだと私は思います。誰でも、いろいろなことがありますし、若いうちはできるのだけれど、だんだんと体力、エネルギーもなくなります。そういうときに、何か外的な要因があったらパッと、休まれていく先生を結構見てきました。ゆとりが大事で、何かあったときに、あるいは子どもと向き合うためにも、ゆとりという余白というのは大事だなと思います。このプランの目標の2番のところで、1年間における教職員の1箇月時間外在校等時間の平均時間を令和11年度までに30時間に縮めるとあります。令和6年度が31時間28分ですから、90分縮めるとすると、1か月20日間働くとして5分になります。5分縮めようと思ったら、簡単にできそうな感じがするのですが、これが難しいと思います。私、民間企業でそんな経験がなく、うちの家庭でも民間企業出身がいなくて、よくわからなかったのです。今年、長女が就職して、企業というのは、その評価が上司に掛かるのです。5分でも残業すると、もちろん残業の報告をしなきゃいけないし、数字が上司に掛かってくる。その部署の評価にも掛かってくるというので結構厳しいです。ワーク・ライフ・バランスは、自分たちに掛かってくるとなかなか難しいのだなと。それで上からコントロールしているのだなというのがよくわかりました。この目標の数字がどうかっていうのはよくわからないのですが、目標を掲げるっていうことは物理的に大事なことでと思います。1年間の360時間以下という目標が、現状は377時間42分で、これも割ると、1日5分ぐらいです。それを本当に意識付けされるかどうか。5分というと個人でいうとたった5分です。何ができるのかと思うのですが、なかなかうまくいかなくて、達成できないのかなと思います。1人にまかせるとなると、5分縮めるということはできないんじゃないでしょうか。5分ぐらいと思うし、ちょっとおしゃべりしたりする時間も欲しいと思います。組織として5分削るとすると、日報も急いで書いて帰るといいます。娘の会社では、もうそれを時間内に納めるように本当に厳しく言われてます。組織が全然違うところなので、なじまないのかもしれないのですが、結果的に、全体で見ると、みんなの利益に繋がる、もちろん子どもの利益にも繋がるのかなと思います。これ目標達成しろと言われても、できないものじゃないかなと思います。

**(飯塚市長)**ありがとうございます。貴重な意見でした。奥委員。

**(奥委員)**プランの17ページの出雲市の部活動に関するガイドラインのみを見ますと、大会というものが、あまり好ましくないのだよというように取られてしまいかねないというような気がしております。参加大会の精選と下の欄にあります。実情いろいろあると思いますが、大会が悪ということではないと思います。本来は、健康増進を狙ったりとか、子どもたちの目標達成、意識の向上ということで、部活動に取り組むということが、趣旨であると思っております。その辺りの書き方、表現方法をご考慮いただけないかなという希望をもっております。ご検討いただければと思います。

**(飯塚市長)** 17 ページの一番上に書いてあるリード文のところをもう少し、部活動の意義が書いてあるといい。部活動が、大変重要な教育活動であるというところをもう少しはっきり、わかるように記載する。取組みとしてはこういうことなのですが、部活動の意義みたいなものが記載があるとよいかと思います。

**(奥委員)** 私が聞く市民の方々の声としては、大会をやっても、参加してくる学校、大会でも練習試合もそうかわかりませんが、そういったところで困っていらっしゃる方々の声も聞いたりします。

**(飯塚市長)** 大会が成り立たないということですか。

**(奥委員)** そうということです。指導者の方々のそういうご意見も聞いていく必要があります。

**(飯塚市長)** 大会については、何か指針みたいのがあるのですか。

**(杉谷教育長)** 指針というのはないのです。平成30年に作った頃というのは、中学校体育連盟主催の専門部も含めて、主催の大会というのが主だった時代から、様々なクラブとか連盟とかが、大会を作って、実施されるということが多くなってきました。そこに毎週のように、あるいは毎週に近いように参加をしていくとなると、休みもとれない状況がありました。そのような状況を、片方で見ながら、出場する大会は計画的に年間定めて、そこに向けて練習をするということをやります。片方で、土日どちらかは休養日がきちんと設定できるようにということをやったり目指さないといけないということで、こういう書きぶりになっているということです。大会に出場することというのは、何らかの目標を持って子どもたちなり指導者の皆さんやっているわけですが、それが過密すぎるがゆえに、子どもたちもそうですし、指導者側も休養がとれない。それは、やはりよろしくないだろうということで、これをしっかりガイドラインとして、遵守いただけるように、殊更に「精選」というものを加えて、今も記載をしているという状況です。おそらく種目によって、随分と違うのだと思うのですが、本当に毎週のように出かけている状況を片方で見るときに、やはり整理が必要だなということでした。特に今、これは良くてこれはいけないというものはないのですが、年間計画を立てて、参加してくださいということをお伝えをしているということです。

**(飯塚市長)** 伊藤副市長いかがですか。

**(伊藤副市長)** 各委員さんがそれぞれお話だったので、私からは、あまり言うことはないの

ですけれど、教職員は、超勤ではなくて在校等時間という言い方をしておられます。現場で労働時間のコントロールをするのは、管理職の人だと。校長先生、教頭先生のそれぞれの学校の考え方、取組みが非常に大きく反映するのかなと思っていました。管理職の能力の高さというのは労務管理というのが非常に大きい、そういった方々がなっておられると思います。その考え方によって相当時間数が違うのではないのかなと。教育長がおっしゃるように学校の規模とかといろいろ左右される部分があるというのはわかりますけれども、現場のトップに立つ人間の思いが、非常に大きく左右するのではないかなと思っています。中学校は、当然、部活動が入っている時間です。それと比較すると、小学校もかなり時間が多いというのが印象です。この4年から6年までの傾向を見ると小学校はかなり改善が進んでいるので、いい形になっているのですけれども、80時間以上の方がたくさんあるというのがちょっとこれは、何か気になるころだなというふうに思います。80時間で過労死ラインなので、それをゼロにするというのはすごくわかります。徹底的に、現場の先生方を管理職の方が個別に指導するしかないかなと思います。市役所の中でも超過勤務というのは問題があります。季節的にどうしようもない時期があるのですが、それ以外のところで、個人の資質によって、非常にやる人とそうではない人、うまく捌くことができる人とあるので、何とも言いませんけれども、現場の先生を人ごとに指導していくしかないのかな。そういうことの積み上げが、在校等時間80時間の解消に一番早く繋がるとと思っています。非常にテクニカルといますか、簡単といますか、そんなに難しい話ではないので、そういうことをしっかり、誰が、いつ、どれだけの時間を、どの作業のためにしたかということをつまびらかに管理職が把握すれば、この辺りを少しずつ改善していけるのではないかとと思っています。泥臭くする部分と、そうでない部分はあると思いますけれども、超過勤務の圧縮については、取組みを強化すれば、ある程度のいい数字が出てくるのではないかとと思います。先生の場合は、給特法の関係で、4%上がるのです。対価が上がりますので、在庫等時間の兼ね合いがあります。これだけもらっているのだからという、そういった意見が逆に出ないかというなことを心配しております。

**(飯塚市長)** いろいろと皆さん方からご意見を聞いたところでございます。最後、皆さん方から、これ以外のことでも、何かあればお伺いしたいと思います。

**(各委員)** なし。

**(飯塚市長)** 今日のテーマにつきましては、いろいろご意見をいただきました。これから教育委員会とともに取組みを進めてまいりたいと思っております。ご意見をきかせていただきながら、保護者さんの理解とか、いろいろあったように思います。私の感想といたしますか、副市長もお話されました、また途中で川田委員さんからもありました。ここにはないので、教育委員会で取り組むことで、ぜひ入れてもらいたいのは、マネジメントの研修を

しっかりしてもらいたいと思います。時間管理だけではなくて、しっかりと取り組むということ。先生方とお話するのもコミュニケーション能力だと思います。マネジメントであったり、コミュニケーションであったり、研修するというのを教育委員会で主導的に取り組んで、年に1回から2回ぐらいしてもらいたいなというふうに思います。学校は学校できちんとやるのですけれど、全体的にそういうようなことをしてもらいたいなというふうに思います。さらに言えば、いろいろメニューがあってこれをやっていけば削減するかもしれません。ワーク・ライフ・バランスが崩れて、実際は家に持って帰ってしているなど、わからないこともあります。達成はしたけれども実は、家に帰ってしている労働時間がもっと増えているのではないか。それはいいのか、悪いのかってということです。目標の時間は削減はされているけれども、実際そういうところが増えていって、これはどうなんだろうっていうことがないとも限りません。その意識づけをきちんとしてもらうためにも、特に管理職と言われる校長と教頭先生に研修なり何なりして意識づけをしてもらいたいなというふうにちょっと私は思ったところです。またご検討いただいたらと思います。あと今日のテーマ以外で何か気がつかれたこと等ございましたらお願いします。奥委員。

**(奥委員)**今日の議題とは関係ないですが、お話をしたいのですけれど、皆さんご承知の通り、すでにご指導もされていらっしゃるかと思いますが、来年の4月から自転車での交通違反の取り締まりが強化をされるということです。対象年齢は、16歳以上ということになります。小学生、中学生の方々も自転車に乗っているということもあります。家庭が主としてそういった指導をできれば一番いいのですが、何かの機会が結構ですので、各学校でも、そういった児童生徒に自転車の乗り方、マナー、取り締まりがあるということをするね、承知をってもらう機会を設けていただきたいと思います。

**(飯塚市長)**どうぞ。

**(原田教育部次長)**自転車の乗り方については、確かにその通りでございます。各学校において、自転車教室を行っている学校もございます。安全面での周知ということで、様々な文章も来ております。中学校についても自転車通学の生徒もおります。学校それぞれ対応しながら生徒指導のところで指導していると思います。今後また、しっかりと情報を提供しながら、自転車の法の改正等も含めて、指導をお願いしていきたいなと思っております。

**(飯塚市長)**どうぞ。

**(飯塚市長)**他にいかがですか。

**(各委員)**なし。

**(飯塚市長)** 貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

**(山根教育部次長)** たくさんのご意見をありがとうございました。事務局も頂いた意見をもとに、今後、取組を進めていきたいと思っております。終わりに、教育長が一言御挨拶いたします。

**(杉谷教育長)** 本日は長時間にわたって、本当にたくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。プランを作ったけれど、これが、保護者、地域の皆さんにきちっと行き届いて、理解いただき協力いただけるのかと、これは本当に大きなご意見だったなというふうに思っております。プランを進めていく私どもも含め、学校、特に管理職が、しっかりその目的なり、労務管理をするということについて、意識を高めるということであったと思います。市長の方からは、研修の機会も持つべきというご意見をいただきましたので、そうしたことは本当に大事なことだなというふうに改めて感じたところです。先ほど、事務局が申しましたように、今日いただいたご意見を含め、整理いたしまして、完成版とさせていただきますたいと思っております。これを作って終わりではなくて、その先にあるのは、鳥屋尾委員が仰ったように、子どもたちにどういう返しができるのかということだと思っております。その広報の仕方もなにかしらキャッチフレーズみたいなのが一つあるかなと思いついたので、今後工夫をさせていただきますたいと思います。本日はたくさんのご意見本当にありがとうございました。

**(山根教育部次長)** それでは以上をもちまして、令和7年度第2回総合教育会議を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

**(5時1分 終了)**